

地域資源（未利用材と低質材）を活用した商品開発・販路開拓

- ◆振興山村名：中川村
- ◆事業実施主体名：中川町
- ◆事業実施期間：H27～H29
- ◆交付決定額：25,160千円



◎主な事業内容と効果

眠っている地域資源である林地未利用材や低質材を有効活用するため、薪と木工クラフト原料としての製造販売について検討しているが、製造に係る人材育成や、販売に向けたシステムの構築などが必要であった。

そこで、安定した薪と木工クラフト原料の製造販売に向け、生産体制の強化や販売システムの開発を図るため、基盤整備やマーケティング調査などを行った。

これにより、製造に係る雇用の創出や安定した販売による所得向上が図られ、地域資源を活用することで地域での持続的な経済循環を生むことができた。

◎目標値の設定

- ①所得 ～ 1年目（6,000千円）、2・3年目（10,000千円）
- ②雇用 ～ 1年目（3名）、2年目（5名増）、3年目（5名）
- ③商品販売額 ～ 1年目（2,000千円）、2・3年目（5,000千円）

◎事業のココがポイント

- ①道北圏を中心に薪の販路が1週間に拡大した。
- ②木工クラフト原料については、家具材の端材や低質材を原料として多様な原料及び販売方法を開発。道内はじめ、道外の木工作家とも取引を開始している。
- ③未利用材や低質材を粗放な状況で販売するだけでなく、都市圏のデザイナーと協力して実施することによりメディア露出等も含めた販売戦略が立てられた。
- ④当初、木材を対象としていたが、樹皮や蔓など多様な素材についての販路や加工についてのノウハウが獲得できた。
- ⑤木工をはじめとする作家3名、林業に従事する女性1名が移住した。

◎事業実施において苦慮したこと

- ①製品が開発され、一定の販売実績が上がる一方で、常に雇用の確保に苦労した。
- ②当初林業従事者の雇用が途切れる期間の作業として製品開発を企画したが、本業の林業が忙しく、集中的に製品開発・製造に向けられる期間をつくることに苦労した。
- ③木工作家と言っても、様々なものづくりのスタイルがあるため、木工クラフト原料の形状や規格も一定ではなく、多様なニーズにどのように応えるかに苦慮した。
- ④取組みが進むにつれて、樹皮、蔓、木灰、枝、花など、森や木に関わる素材であればどんなものでも注文がくるようになってしまい、対応に苦慮した。